

（特選）

☆春一番合格絵馬を鳴らしけり

進

神社に沢山の合格絵馬が掛けられている。折から春一番の強い風が吹き渡り、からからと音を立てている。

景がよく見える視覚と聴覚で詠みとめた秀句である。

・何処までも河津桜と人の波

忠男

川の土手であろうか。沢山の河津桜が満開でその鑑賞のため人の波が続いている。風が吹くと河津桜の花びらが飛び散っている。

上五の『何処までも』が情景をよく捉えている。

・雪解やトロッコで行く発電所

よしまさ

発電所は黒部溪谷にあるものであろうか。黒部川沿いの高いところをトロッコに乗って溪谷の美しさを堪能している。折から雪解けのため川の水量も満々としている。読み手もトロッコに乗っている気分。

（入選）

・鳴立の沢の鼓動や西行忌

良月

・花房に雨の滴る馬酔木かな

きよし

・雛の家所言葉の爺と婆

尤子

・風光る工作励む子の眼

けんじ

・城跡の花の名残りや西行忌

繁好

（佳作）

・ころころと瀬音のリズム水温む

たか志

・大磯の磯の香りや西行忌

邦夫

・お喋りもリハビリのうち山笑ふ

かつを

・蟻穴を出て惑うや石だたみ

良月

・春場所や故郷に送る勝名乗り

進

・鼻歌の若き農夫や春田打ち

繁好

・海までの試歩の小径や匂鳥

進

・荒廃の空き家に梅の乱舞かな

邦夫

・地平線につづく春田や米所

良月

・寝不足の朝餉の粥や蜆汁

たか志

・やせ尾根の難所の眼下芽吹きをり

良月

・山道の深深として西行忌

玄舟